

滋賀県病院協会報



発行所
滋賀県病院協会
大津市京町四丁目3-28
(滋賀県厚生会館)
TEL 077-525-7525
http://sbk.co-site.jp/
発行人 会長 石川 浩三

平成30年度(第38回)滋賀県病院大会 盛会裡に終る

平成30年度(第38回)滋賀県病院大会は、去る1月20日(日)に、滋賀県知事、滋賀県議会議長、滋賀県医師会会長様をはじめ多くの来賓をお迎えし、大津の「ピアザホール」にて、盛大に開催されました。

滋賀県病院大会は、県内の病院従事者が一堂に会し、病院をめぐる諸問題について協議研究を深め、今後の病院運営に資することを趣旨として昭和56年度から開催され、今回で第38回目となります。

式典、特別講演(県民公開講座)、シンポジウムの三部構成ですが、式典は、10時から開催され、一般社団法人滋賀県病院協会の片岡慶正会長による開会挨拶、続いて表彰授与が執り行われました。

病院業務功労者知事表彰、ご出席の三日月知事、滋賀県議会議長 川島隆

より、受賞者3名に一人ずつ賞状と記念品が授与され、その労をねぎらわれ、今後の病院運営に資することを趣旨として昭和56年度から開催され、今回で第38回目となります。

二様、一般社団法人滋賀県医師会 越智真一様のお三方から祝辞を頂戴するとともに後援団体の各位を、紹介し、式典は無事終了した。

特別講演は、病院協会の石川副会長が座長を務め、一般社団法人日本病院会会長で社会医療法人財団慈栄会 理事長・相澤 孝夫先生を、紹介され、相澤先生からは「病院に求められるインベション」-医療をとり巻く環境が激変する中で-と題した講演をいただきました。(なお、こ

の特別講演は、今年度で第9回目となる滋賀県民公開講座としても開催いたしました。)

午後からのシンポジウムでは、当協会学術担当の平野理事(社会医療法人誠光会草津総合病院)が座長として「病院における勤務環境の改善について」-現状と課題-というテーマに取り上げ、シンポジウムを開催された。(詳細は下段参照)

平成30年度 滋賀県病院大会シンポジウム 「病院における勤務環境の改善について」-現状と課題-を開催して



座長
社会医療法人誠光会 草津総合病院 病院長 平野 正満

今回のシンポジウムでは、最近の医療界で最も注目されホットな話題となっている「病院における勤務環境の改善」、いわゆる「働き方改革」をテーマとして取り上げました。

医師をはじめとする病院職員の自己犠牲的な努力と献身で支えられてきたわが国の医療が、大きな転換期に差し掛かっています。医療の在り方が問われているなか、国は日本における労働制度や勤務環境整備、特に働き方を改革しようとしています。

労働環境が改善すればワークライフバランスが実現し、女性や高齢者も仕事に就きやすくなり、時間当たりの労働生産性が向上すると期待されています。労働者が多様な働き方を選択し、一徳総活躍社会の実現に向けた取組が、今や国の重要な政策となっているのです。このような社会的背景や現状での課題点を基調講演で紹介させていただきます。シンポジウムに移りました。

労働環境を整備し働き方改革を推進されている行政の代表として滋賀県労働局から、改革関連法の概略とこの改革の必要性、さらには今後の方向性をわかりやすく説明いただきました。滋賀県医療労働環境改善支援センターは平成26年に開設されましたが、現在ではアウトリーチ型訪問活動を

熱が入らず参加者がだんだん少なくなってきた。災害はいつ起こるか分からないので夜の23時頃に街灯を消して真っ暗の中、皆で避難場所の公園までルートを確認しながら避難訓練してまいりました。災害はいつ起こるか分からないので夜の23時頃に街灯を消して真っ暗の中、皆で避難場所の公園までルートを確認しながら避難訓練してまいりました。

静岡に在る間に東海地方には大きな地震は起こりませんでした。すると私を含め人間はだんだん準備を失ってしまっています。避難訓練にも

産性が向上すると期待されています。労働者が多様な働き方を選択し、一徳総活躍社会の実現に向けた取組が、今や国の重要な政策となっているのです。このような社会的背景や現状での課題点を基調講演で紹介させていただきます。シンポジウムに移りました。

一方、病院からは急性期病院の院長、女性医師、看護師、そして病院事務職の4名の代表の方それぞれ視点で報告をいただきました。急性期病院からは主に医師の働き方改革、労働時間短縮に向けた取組の紹介でした。改革によって医師の健康を守りつつ必要な医療供給体制を維持できるかが論点となりましたが、

山県真備町地区に隣接しながら犠牲者がゼロの地区があり明暗を分けたのは自主防災の活動だったという話を聞きました。

大きな災害にはまた直

面したことがありませんが「災害は忘れた頃にやってくる」、「備えあれば憂いなし」を肝に銘じて新元号を迎えたいと思っています。

スクシフトや病院勤務医負担軽減等改善検討部会の設置などの示唆に富む改善策の取組を紹介いただきました。労働基準監督署の立ち入り調査を受けた際の経験談は大変興味深いものでした。女性医師の立場から、今後女性医師が多くなり活躍の場が増える中で勤務環境の整備が重要であること、さらに女性医師支援策を推進する滋賀県女性医師ネットワーク会議の活動実績が報告されました。看護部の視点からは看護協会のワークライフバランス(WLB)事業の取組とその成果の報告でした。インデックス調査を行い現状分析から課題抽出を行い、業務改善につながる活動を滋賀県看護協会が主導して展開されており、今後県内すべての病院に普及・発展させていきたいと思います。

病院事務の視点からは事務局次長として病院全職種に係る取組を労働時間の管理を中心に報告いただきました。困難な課題に対し熱意と工夫で解決につなげる取組は大変参考になる内容であったと思います。

今回のシンポジウムでは病院における勤務環境の改善について多職種の立場から現状の課題報告

私の主張

今年の4月で平成の元号も終わろうとしています。昭和に生まれた者にとって元号が変わるのは衝撃的だったと記憶しています。その平成は本



「平成を振り返って」

高島市民病院 院長 鈴木 聡

が支えていただきました。町内会の組長がリーダーとなり各世帯の人数、支援が必要な要配慮者を把握し、避難経路も決めて

今年度の4月で平成の元号も終わろうとしています。昭和に生まれた者にとって元号が変わるのは衝撃的だったと記憶しています。その平成は本



平成30年度(第38回)滋賀県病院大会

平成30年度(第38回)滋賀県病院大会特別講演(県民公開講座) 『病院に求められるイノベーション』—医療を取り巻く環境が激変する中で—医療提供体制の改革と病院経営を受講して



座長
大津赤十字病院
院長 石川 浩三

今回の特別講演(県民公開講座)の座長を務めましたので、その概要を報告いたします。

講師の相澤孝夫先生は、一般社団法人日本病院会会長で社会医療法人財団慈泉会理事長・相澤病院最高経営責任者を務めておられます。日本全国の病院を取りまとめて牽引されているリーダーから直接今後あるべき医療体制と病院の方向性とそれについてお話を伺いました。

まず、人口減少と高齢化に見舞われている現状に対して、人口構造に応じた医療圏と医療提供体制についてお話しされました。人口減少しても必要な生活サービスが効率的に提供できる圏域を創ることを目指す。人口30〜40万人で成立するサービスには救命救急センター、大学、百貨店などが、したがってこの医療圏には集約型急性期医療を提供する中核となる広域型病院と、その医療圏内の人口2〜3万人ごとに地域密着型医療を提供する地域密着型病院が必要となる。広域型病院と地域密着型病院がそれぞれの役割を担って機能分担することが今後の医療提供体制の基本となるとの考えを示された。

広域型病院は罹患率がそれほど高くない専門的な医療を必要とする中等度から重度の入院医療を行うことを原則とし、急性期後の患者はできる限り早く地域密着型病院に転院することを方針とする。一方地域密着型病院は、罹患率が高く治療法も確立されている疾患の軽度から中等度の患者の入院医療と急性期後の入院医療を行うことを原則とし、診療圏の拡大は目指さず、医療介護連携を強化して、地域包括ケア構築に貢献しなければならぬ。しかし、軽度〜中等度の急性期患者における入院の線引きは地域事情や病院事情を考慮して設定することが現実的である。重要なことは、地域密着型医療を行う病院が、地域事情と自病院の力量を考慮して、自病院で行わない急性期医療を明確にすることであり、このことにより、病院の役割分担が明確になり、病病連携が活性化される。大都市圏では、これらの二つの病院機能の間に中間的機能を持つ病院の必要性も示された。地域医療構想における大阪方式や埼玉方式あるいは奈良方式の中でも、軽症急性期あるいは地域急性期の概念が示され、滋賀県でもその重要性が認識されつつある中で、この考え方を後押しされる心強いお話であった。

締めくくりとして、地域医療構想調整会議で必要なことは、各医療圏における医療需要と各病院のデータを検討して病院機能を明確にすることである、そしてこのような地域医療提供体制の構築が喫緊の課題であること、を強調され、最後に2040年を見据えた社会保障の将来見通しと問題点についても、ご教示いただいた。

各病院が、今後の自院のあるべき方向性を模索しているときに、非常に具体的でわかりやすい講演を拝聴し、目が覚めた思いでした。

講師紹介

一般社団法人日本病院会会長
社会医療法人財団慈泉会
理事長・相澤病院 最高経営責任者
相澤 孝夫 氏

【主な現職】
長野県松本中友好協会 会長
全国病院経営管理学会 会長
地域再生医福食農連携推進支援機構 理事長
公益社団法人日本人間ドック学会 副理事長
一般社団法人日本医療安全調査機構 理事
公益財団法人医療研修推進財団 理事
公益財団法人日本医療機能評価機構 理事
公益財団法人国際医療技術財団 理事
社会保障審議会医療部会 臨時委員
社会保障審議会医療分科会 臨時委員
特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会 構成員
医療従事者の需給に関する検討会 構成員
次世代医療ICT基盤協議会 構成員 他

平成30年度
「院長・事務長合同研修会」を開催して



一般社団法人
水口病院
院長 青木 治亮

平成31年1月13日に琵琶湖ホテルにて平成30年度「院長・事務長合同研修会」を開催しました。本研修会は毎年開催され、職場内で起こり得る可能性のある、嫌がらせ(ハラスメント)や人権に関連した諸問題に焦点を当てて勉強することを目的としてきました。今年度は、それらの一因でもある怒りの感情(アンガー)について学ぶ機会を得ました。講師に日本アンガーマネジメント協会認定講師でメディア・カルマ(ナリ)研究所の鈴木直樹先生をお招きし、県内47病院から89名の参加者が集

平成30年度
「医療安全対策窓口担当者研修会」に参加して



医療法人 幸生会
琵琶湖中央病院
管理副院長
荒堀 光信

平成31年1月30日「コラボ」が21において、「平成30年度医療安全対策窓口担当者研修会」が県下43病院から75名の参加者を得て開催されました。

冒頭あいさつに立たれた石川浩三当会会長は、日ごろの医療安全担当者の労苦に敬意を表されつつ、本研修会を「医療安全の取組みにおける悩みを共有し、病院の質を高めるための医療安全に係るノウハウを共有する場」と位置付けられました。

研修会は講演2題で構成され、講演1は来見良誠当会医療安全担当役員を座長に、滋賀県健康医療福祉部医療政策課医療安全室井出徹哉主幹による「県医療安全相談室における運営・相談の対応状況について」でした。「県医療安全相談室」は基本方針として、患者・家族等と医療提供施設との信頼関係の構築を支援し、中立的な立場を堅持して相談業務を行っていますと紹介され、平成29年度における相談の対応状況について報告をいただきました。相談件数における診療科目では内科が

ロールの三つを keyword に、怒り感情の本質を知ることが出来ました。まずは、出来事に対する意味づけの方向によって怒りの感情が生じるというメカニズム。そもそも、その方向を左右させる要因として、個人の理想と眼前に起こっている現実とのギャップがあり、それが怒りの正体であると。その中で、怒ること自体が駄目ではなく、上手な叱り方が大切であることを重ねて指摘されました。講演が終了する頃には、聴講者の表情も柔和なものとなり会場を後にしました。

2020件(35.9%)で多く、次いで精神科81件(13.2%)で、全国的に精神科の相談が増加傾向にあり、相談内容では医療行為・医療内容に関する相談が最も多く、次いでコミュニケーションに関するものが多いという結果でした。相談件数は増加傾向にあり、リピーターの割合が増えていること、背景としてインターネット環境の普及により情報取得が容易になっていることを上げられ、今後増加することが予測されると分析されました。

講演2は石川浩三当会副会長を座長に、滋賀県立総合病院一山智総院長による「みんなで取り組む医療安全」がテーマで、医療安全の取組みは正解がない、応用問題ばかりというお話には日ごろの悩みへの明答をいただいた思いでした。ひとつの重大事故がそれま

平成30年度(第13回)
暴力団等不当要求防止対策
研修会に参加して



長浜市立湖北病院
医事課長
中川 浩孝

平成31年2月19日(火)14時から、「コラボ」が21において、滋賀県病院協会主催(後援:滋賀県警察本部・公益財団法人滋賀県暴力団追放推進センター)で「平成30年度第13回」暴力団等不当要求防止対策研修会」が開催されました。

この研修会は、暴力団等による不当な行為を防止し、患者に信頼される病院経営を図るため、病院関係者を対象として隔年で開催されているもので、今回は43病院から67名の参加がありました。

研修会では、「最近の暴力団情勢について」と「医療機関における不当要求対策」という2つのテーマについて滋賀県警察本部から2名の講師をお招きして講演いただきました。

まず、最近の暴力団情勢については、ピーク時の平成元年には全国で約18万人もの暴力団の構成員等がいましたが、平成29年末には、約34,500人にまで減少しており、滋賀県内では、平成29年末で3団体約50人となつています。一方で、暴力団とは別な組織として「平グレ集団」があり、その構成員数は最近増加しており、動向には注意が必要です。

これらの組織に対応していくためには、日頃から情報収集に取り組み、地元の警察等と密接に連携を図っていくことが大切であると感じました。次に医療機関における不当要求対策については、具体的な県内で発生した事例等も交えながら、不当要求に対して、どのように対応していけば良いのかについてお話しいただきました。

幹部は毅然として不当要求と闘う姿勢を打ち出し、職員を守る覚悟を持つことが必要であり、個人々人ではなく、組織として対応していくことが大切であるとのことでした。また、1対1での対応は避け、必ず複数で対応することやICレコーダー等を活用し、録音・録画等によりしっかりと記録を残しておくことが重要であるとのことでした。そして、危険を感じた際には躊躇なく110番に通報!

今回の研修会への参加を通じて、不当要求に対する、組織として毅然とした態度で対応していくことが重要であると感じ、当院での今後の不当要求防止対策への取り組みに活かしていきたいと思っております。



滋賀県MIMS(大事故災害への医療対応)研修会を受講して



医療法人社団 日野記念病院 院長代行 仲 成幸

Hospital MIMS(Major Incident Medical Management and Support)病院における大事故災害への医療対応)を受講させて頂きました。MIMSは英国のAdvanced Life Support Group(ALSG)によって運営される、大災害時の医療にかかわる警察、消防、救急、医療機関、ボランティア、行政などの各部門の役割と責任、組織体系、連携の

ミレージンを行いながら、大事故災害への医療対応についての知識を身に付けるようになっています。ここで定義される大事故災害とは、地震や台風などの自然災害、大規模な交通災害などにおいて、生存被災者の数、重症度など、災害の種類または発生場所のために、保険医療サービスによる特別な準備が必要とされる事象のことです。そして、大事故災害時に医療機関が取るべき行動の原則はSCATTT(スキャット)を頭文字として次の7つにまとめられています。先ず、医療管理項目として、指揮と統制(C:Command & Control)、安

全(S:Safety)、情報伝達(C:Communication)、評価(A:Assessment)があり、次に医療支援項目としてトリアシ(T:Triage)、治療(T:Treatment)、搬送(T:Transport)となっています。また、状況に合わせて折りたたむ(簡素化する)ことができる病院の組織作りが重要であり、病院スタッフの各々の責任や役割について記載されたアクションカードを予め作成しておくことが求められています。今回のHospital MIMSでは詳しくは触れられていないのですが、病院の

「無計画は失敗を計画することである」と書かれています。大事故災害は一定の確率で必ず起こるものだと考えられます。地域の医療を担う施設として、日頃からのしっかりとした準備と心構えが大切であることを改めて実感しました。

平成30年度 研修医および若手医師のためのフォーラムに参加して



長浜赤十字病院 院長 楠井 隆

平成30年12月6日、びわ湖大津プリンスホテルにおいて、第10回となる本フォーラムが開催された。県内14病院から1年目97名、2年目7名の研修医を始め121名参加と盛況であった。

前半は独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター外科の全有美先生、市立長浜病院腎臓内科の廣坂雄介先生の2名の若手医師にそれぞれの体験談を話していただいた。何事にも積極的に元氣いっばいの全先生も、自らさぼり癖があるという廣坂先生も、共通するのは興味を持つことを追求することによりつらいことがあっても乗り越えられるということであった。それぞれが得意を伸ばし、同時に必要なら研修も乗り越え発展させていることが伝わり我々主催者側も元気を分けてもらうことができたし、参加いただいた研修医の方々に

にとっても参考となる点大きかったと思う。質疑応答では、昔と違い若手も比較的有給休暇が取れている印象で働き方改革の良い面が感じられたと同時に「うらやましくもあった。また、研修医時代の手技の修練の機会については施設間の差が大きいことも感じられた。後半は滋賀医科大学小児科学講座の丸尾良浩教授に「滋賀県の小児科医療と小児科の魅力」と題して講演いただいた。新生児黄疸に関するゲノム解析から始められた研究生活とその広がりでは、実際に遭遇した症例に基づいて始めた研究が大きいに発展したことを紹介いただいた。日常臨床にも大きな研究の題材となりうる症例がいくつもあり、それをものに研究が発展することもある。そのような貴重な症例に遭遇する機会を見逃さないように常に研究者の心も持つて日常診療にあたるのが重要であると感じられた。小児医療は子供だけでなくで一人の医師がみんな診ることが求められるのであるが、それが小児科の苦勞でもあり、同時に魅力でもある。医学的な視点のみならず、社会的、経済的な視点も必



平成30年度 退院支援機能強化事業全体研修会の学び 地域住民を「誰が、どこで、どう支えるか」が重要



公立甲賀病院 副看護部長 地域医療連携部副部長 山下 鳴美

平成30年11月22日(木)医療研修施設ニプロホール 病院 総看護部長 力石泉氏より「豊郷病院在宅療養サポーターセンターの取り組み」について事例報告をして頂きました。その後、グループワークで「それぞれの職種における立場でやるべきことと連携のありかた」について情報交換を行い、現状の問題点と問題を解決するための対策を発表して頂きました。参加者は128名で病院や地域から多職種の方の参加があり、実りある研修会となりました。

講演では地域包括ケアシステムを改めて考える機会となりました。地域包括ケアシステムとは、「高齢者が介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるように地域がサポートし合う社会のシステム」のことで、講演受講前は「患者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるまで」に注目していましたが、地域で暮らすことと連携のありかたについて情報交換を行い、現状の問題点と問題を解決するための対策を発表して頂きました。参加者は128名で病院や地域から多職種の方の参加があり、実りある研修会となりました。

講演では地域包括ケアシステムを改めて考える機会となりました。地域包括ケアシステムとは、「高齢者が介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるように地域がサポートし合う社会のシステム」のことで、講演受講前は「患者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるまで」に注目していましたが、地域で暮らすことと連携のありかたについて情報交換を行い、現状の問題点と問題を解決するための対策を発表して頂きました。参加者は128名で病院や地域から多職種の方の参加があり、実りある研修会となりました。

平成30年度 看護部長部会研修会に参加して



滋賀県立 精神医療センター 看護部長 白崎 恵子

平成30年度の看護部長部会研修会は、京都嵐山の大悲閣千光寺住職 大道忠先生による講義「無生 死の癒しについて」でした。難しいテーマだという印象を受けましたが、日頃の緊張や多忙さなどストレスの多い医療現場で業務に携わる看護管理者にとって、非常に興味関心の高いテーマであり、約65名の参加がありました。研修は、まず5分間の瞑想体験からスタートしました。たった5分間ですがすがしい気持ちになり、呼吸を整えて息を吸って吐く、頭の中は何も考えない「空無我」の境地になることが大切だということでした。2回目は数字を数えながら、その次は目を開けたままなど条件を変えて4回体験しましたが、途中で姿勢が崩れて呼吸が乱れた高いうえ、開眼したままと会場の色々な情報が目に飛び込んでくるため、なかなか瞑想に集中できない状況がありました。講義の中で、情報が溢れている現代社会において、私たちは色々な刺激を受けており、知らない間に反応しすぎていると指摘されていました。日常生活は、日常ではつい物事の損得を考へ悩みに左右されがちです。しかし、研修で振り返り行われた瞑想体験は、5分間がすごく長いと感じたと同時に、静寂な空気が流れて心落ち着く貴重な体験でした。また、仏教と医療の世界では共通することが多いと語られていました。

医療の現場では人の生死に関わる場面に遭遇し、従事者は苦しみや悲しみを体験します。老若男女、善人・悪人を問わず全人を対象として医療や看護を提供します。そこでは決して見返りを求めません。こうした行いは「尽くしても報いを求めない禅の心」と重なり、ゼロに始まりゼロに終わる禅の世界の悟りに通じるものです。そして、全てを受け入れられるようにゼロ・空の心を持つために修行を積み重ねてこられたご経験や、空を体感することが人々の癒しになることを教えてくださいました。

最後に講師の先生と一緒に参加者が般若心経を唱える機会がありました。が、少しだけ異次元な世界に居るような不思議な時間を共有させていただきました。今回の研修会に参加して、体験した瞑想は自分でも気軽に、いつでも実践していくことができると思えました。また、休日には俗世間から離れた禅寺で本格的に座禅を組んでみるのもいいかもしれません。と考えながら帰路につきました。



受賞おめでとうございます

※平成30年度病院大会席上での表彰

平成30年度 病院業務功労者知事表彰

(平成31年1月20日)



社会医療法人 誠光会草津総合病院 総合内科統括部長 岩崎 良昭氏



長浜赤十字病院 院長 楠井 隆氏



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 院長 周防 正史氏

平成30年度 滋賀県病院協会 永年勤続会長表彰

(同一病院で勤続15年以上) 48病院382名

平成30年度 滋賀県病院協会優秀職員会長表彰 (14名)



平成30年度(第38回)滋賀県病院大会

平成30年度 公衆衛生事業功労者表彰

厚生労働大臣表彰 平成31年2月25日



独立行政法人 地域医療機能推進機構 滋賀病院 副院長 有村 哲朗氏

一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰

平成31年2月25日



公立甲賀病院 副院長 川嶋 剛史氏

公益衛生事業功労者知事表彰

平成31年2月23日



大津赤十字病院 副院長 耳鼻咽喉科部長 中村 一氏

公益財団法人滋賀県健康づくり財団理事長表彰

平成31年2月23日



市立長浜病院 診療局理事 杉本 正幸氏



社会福祉法人青祥会 セフイロト病院 看護師 和田 吉郎氏



医療法人敬愛会 東近江敬愛病院 介護福祉士 寺田 礼子氏

湖上と現場で考える

「滋賀県地域医療フォーラム2019」を開催

滋賀県病院協会では、湖上と現場で考える「滋賀県地域医療フォーラム2019」を開催しました。...



汚れを数値化して感染対策に活用する

市立長浜病院 感染管理認定看護師 中村 寛子

医療施設における標準予防策のひとつとして、環境に対する管理が重要です。...

病院名の変更

地方独立行政法人 公立甲賀病院

(平成31年4月1日付け) 所在地 電話番号・FAX番号、従前と変更なし

お知らせ

平成31年度 一般社団法人 滋賀県病院協会 通常総会のご案内

日時 2019年5月29日(水) 15:30~ 会場 びわ湖大津プリンスホテル

平成31年度(第33回) 病院協会ソフトボール大会

日時 2019年9月23日(月・祝) 雨天の場合 9月29日(日) 会場 高島市今津総合運動公園

ご逝去を悼む

故原 慶文 先生(享年86歳) (元長浜赤十字病院 院長)

平成4年4月から平成14年7月まで長浜赤十字病院の院長として活躍されました。...

デノシン(リン酸)を測定することにより、その場所における微生物、あるいは微生物の痕跡があることを証明することができます。...

